

## めいあいへるぷゆうーダスキン愛の輪基金

1980年8月22日、ダスキンを創業して17年目、創業者 鈴木清一が永眠されました。終生願ひ続けてきた「祈りの経営」という独自の経営理念と、その思想「人を育てる」「惜しみない愛を捧げる」という愛の精神を受け継ぎ、前進できる目標が必要でした。

翌年の1981年、国連が提唱した国際障害者年のテーマ、障がい者の社会への「完全参加と平等」の趣旨に沿って、創業10周年を迎えたミスタードーナツが、お世話になった地域の皆さまへのお礼返しとして、「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」を提唱し、日本全国に大きな影響をもたらし、その事業継承のため、ダスキンの社会貢献活動のひとつとして、「財団法人 広げよう愛の輪運動基金」が発足し、2012年2月、内閣府の公益認定を受け「公益財団法人 ダスキン愛の輪基金」として生まれ変わりました。

「めいあいへるぷゆう？（何かお手伝いすることはありませんか？）」、私たちにできることはほんの小さいことかもしれませんが、誰かのために、何か少しでもお役に立たせていただきたい。街角で困った人を見かけたら、お手伝いしたい。

一人ひとりの真心や優しさを行動に表し、「障がい者の自立と社会との共生」の実現を願ひ、小さなボランティアの輪が広がって、障がいのあるなしにかかわらず、全ての人々が心豊かな社会になりますように願っています。

## あいのわ宣言

私たちは、この運動を通じて障害者の方々が社会への完全参加を果たせるよう平等の立場から、心身障害児・者福祉の発展に努めることを誓います。

### 「広げよう愛の輪運動」会員憲章

私たちは、人間の尊厳と社会正義の信念に基づき、心身に障害を有する人びとと、すべてを連帯する。

私たちは、「広げよう愛の輪運動」のシンボル・バッジを掲げ、広く多くの人びとに運動の理念を啓発し、併せて参加を呼びかける。

私たちは、障害者における安全な社会環境の整備を求め、障害者のニーズを理解し、ボランティア活動等の遂行のために、知識と能力の研鑽に努力する。

すべての人間は生まれながらにして自由であり、尊ばれ、諸権利を有し、そして平等である。

私たちは、すべての人間が深い絆で結ばれ、社会への完全参加を指針とし、援助と協力を積極的に行う決意をここに宣言する。



## 公益財団法人 ダスキン愛の輪基金

### 2022年度(第42期) 事業報告書



## 公益財団法人 ダスキン愛の輪基金

〒564-0063 大阪府吹田市江坂町3-26-13 ダスキン江坂町ビル  
TEL.06-6821-5270 FAX.06-6821-5271 <https://www.ainowa.jp>



愛の輪運動は障がい者の自立と社会との共生を応援しています

## 「誰一人取り残されることのない世界」をめざして

この度、公益財団法人 ダスキン愛の輪基金の理事長を仰せつかりました。設立以来42年の永きにわたり、多くの方々に支えていただきました財団を、今後も皆さまの思いを大切にしながら、永続的に継承してまいります。

当財団は、ダスキン創業者 鈴木誠一の思いを具現化する活動として、国際障害者年が定められた1981年の設立以降、「めい あい へるぶ ゆう」(何かお手伝いできることはありませんか)という思いのもと、障がい者の自立と、社会との共生を目指して活動を続けてまいりました。

主な事業としては、日本から海外の障がい者福祉の先進国での取り組みを学ぶ「ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業」と、アジア太平洋地域の障がいのある若者に日本で障がい者福祉を習得いただく「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」のこの二つの事業に取り組んでおり、研修修了後の研修生はそれぞれの分野で活躍しています。

新型コロナウイルス感染拡大により、出国を見合わせていた日本の研修生も順次渡航し、新しい生活の中で刺激を受けながら研鑽を積んでいます。

一方、アジアの研修生についてはようやく来日することができ、オンライン上でのコミュニケーションから、実際に顔を合わせて共に学び、すべてのカリキュラムを終了して帰国しました。どのような状況下であっても、常に挑戦し続ける研修生の姿は、私たちに諦めない心の大切さを教えてくれます。当財団の事業は、多くの皆さまからの募金や寄付、そして会員として納めていただく会費と、研修生を受け入れていただく関係機関の方々のご支援で成り立っておりますこと、心より感謝申し上げます。

公益財団として、社会的責任を果たすべく、愛の輪の活動をより多くの方にご理解いただけるよう取り組んでまいります。

「誰一人取り残されることのない世界」をめざして、  
皆さまの変わらぬお力添えを心よりお願い申し上げます。

公益財団法人 ダスキン愛の輪基金  
理事長 **大久保裕行**



## ダスキン障害者リーダー育成 海外研修派遣事業

### 事業発足後、42年間で528名の研修生を海外17カ国に派遣

第42期個人研修生2名、および、新型コロナウイルス感染症拡大のため待機中だった第40期個人研修生3名を研修派遣しました。

ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業は、1981年に国連で決議された国際障害者年を契機に、障がい者の社会への完全参加と平等の実現を目指して発足。この事業は、地域社会のリーダーとして貢献したいと願う障がいのある若者に海外で研修していただくもので、障がいのある人を対象とした海外研修派遣制度として、国内外に広く知られています。

#### 研修派遣生の 構成 (528名)

地域別(応募時)	
北海道	9名
東北	28名
北関東	64名
南関東	59名
東京	123名
東海	49名
北陸	13名
近畿	105名
中国	21名
四国	15名
九州	42名

#### 障がい種別

知的障がい	77名
視覚障がい	115名
聴覚障がい	100名
盲ろう	2名
肢体不自由	211名
てんかん	10名
内部障がい	8名
精神障がい	4名
発達障がい	1名

#### 海外派遣先別

アメリカ	402名
イギリス	32名
スウェーデン	15名
オーストラリア	12名
ニュージーランド	14名
ドイツ	11名
カナダ	9名
フィジー	8名
フィンランド	5名
イタリア	7名
ノルウェー	3名
デンマーク	5名
フランス	1名
フィリピン	1名
ロシア	1名
大韓民国	1名
コスタリカ	1名

## 第43期研修派遣生のご紹介

### 自分で設定したテーマで学ぶ個人研修生

安永 愛子さん (肢体不自由)



研修国	カナダ
研修テーマ	カナダ・BC州のインクルーシブ教育の実態について

肢体不自由児のキャリア教育と自立支援のあり方について学びたい。

田中 知美さん (難病(内部疾患))

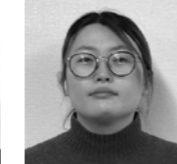


研修国	イギリス、オランダ
研修テーマ	難病患者の立場から、欧州での社会的処方・孤独孤立対策を学ぶ

世界に先駆けて社会的処方を進める国の取り組みを研究したい。

### メンバーがひとつになって学ぶミドルグループ研修生 がんばる映画プロダクション(ろう)

(リーダー)  
今井 ミカさん 牧原 依里さん



研修国	アメリカ
研修テーマ	ろう者・難聴者の映画業界への参入方法とそのマーケティングを学ぶ

今井 彰人さん 増田 菜央さん



(今井ミカさん)  
ろう当事者をもっと映画製作の現場へ! そのノウハウを学び持ち帰りたい。

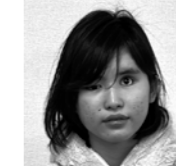
### 高校生たちの海外でのチャレンジ ジュニアグループ研修生(視覚障がい)

酒井 響希さん 吉川 司さん



研修国	アメリカ
研修テーマ	障がい者のアクセシビリティなどを学び、異文化を体験する

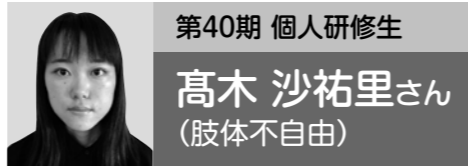
小松 愛陽さん 田中 桃華さん



(酒井響希さん)  
同じ障がいのある仲間と、新しいチャレンジができることがうれしいです!

## 皆で作りに上げるインクルーシブ教育

健常者と障がい者が共に生活しながら学ぶ「エグモント・ホイスコーレン」で研修を行いました。エグモントでは、障がいのある生徒が自分のヘルパーとなる生徒を面接して選び、日常的な介助をしてもらいます。研修前、エグモントでヘルパーとして学ぶ生徒は医療や福祉に関心のある人が多いのだらうと思っていました。しかし、実際は障がい者に関わったことのない人が多く、障がいのある生徒も、同世代の健常者と関わりがなかった人が少なくありません。福祉先進国デンマークはインクルーシブ教育が盛んだと思っていたので、当初はとても驚きました。エグモントには多様な価値観を持つ人が存在します。どんな困難な状況にあっても皆で意見を出し合い、解決策を導き出して行く。障がいのある生徒も授業に楽しく参加できるように先生のみならず、生徒も一丸となって考えていく。それがエグモントであると学びました。



第40期 個人研修生

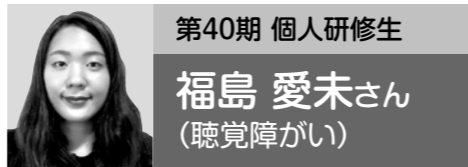
高木 沙祐里さん  
(肢体不自由)

【研修先】デンマーク  
【研修期間】2023年1月13日～12月20日(予定)  
【研修テーマ】デンマークにおける「障がい」の捉え方と障がい者の「自立」について



## ろう者のための空間デザイン DeafSpace Designを多くの人に伝えたい

デンマークにある「Frontrunners」での研修目的は、DeafSpace Design(ろう者のための空間デザイン)の啓発方法を学ぶとともに、得た知識を活かして北欧およびヨーロッパ諸国のDeafSpace Designを撮影・インタビューすること。研修でDeaf Lensという、ろう者の視点で手話者を撮影するときの注意点などを学び、またインターンシップのような「パーソナルプロジェクト」では、DeafSpace Designを考案した米国「ギャローデット大学」でインタビューと撮影を行いました。研修修了後は、目的のヨーロッパ8か国の撮影・インタビューを実施。今後は、世界各国のろう者が「新しいDeafSpace Designを作りたい」「今使っている場所にDeafSpace Designを取り入れたい」というときに参考になるサイトを作り、ろう者がより快適に過ごすことができるよう貢献したいと考えています。



第40期 個人研修生

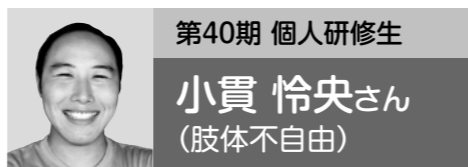
福島 愛未さん  
(聴覚障がい)

【研修先】デンマーク・アメリカ・ノルウェー他  
【研修期間】2022年9月5日～2023年7月16日  
【研修テーマ】ろう者の視点による映像制作技術の研修、北欧のDeafSpace Designの視察



## 頂上には登った、 山を大きくしなければいけない

研修の軸となったのは、LWSRAでの「インターンシップ」と「車椅子ソフトボールチーム、車いすバスケットボールチームでの活動」です。インターンでは、車いすバスケットボールアメリカ代表でパラリンピック2連覇を達成したJake Williams氏の業務をサポート。Jakeはジュニアチームの練習と、障がい者向けのリハビリトレーニングを請け負っており、私もトレーニングメニューの考案をしました。また、車椅子ソフトボールとバスケットボール選手としての活動では、車椅子スポーツに対するアメリカの考え方は、日本とは根本的に違うことを知りました。そして「日本でより多くの方にスポーツをする機会を届けたい」と強く感じました。私は研修中に「車椅子ソフトボールワールドシリーズ」で頂上に立ちましたが、そのこと自体にまだ価値はないと思っています。このスポーツをより大きいものに、よりたくさんの人と楽しめるスポーツにしていけることで、その価値が高まると信じています。



第40期 個人研修生

小貴 怜央さん  
(肢体不自由)

【研修先】アメリカ  
【研修期間】2022年6月5日～10月25日  
【研修テーマ】アメリカにおける車椅子スポーツとソフトボール指導体制について

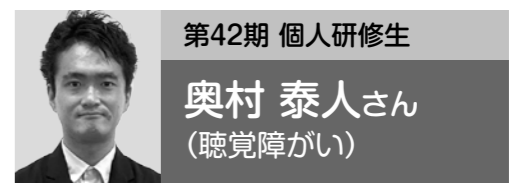


## 日本のエンターテインメントで手話が あたり前に! 先駆者を目指して

舞台やドラマなどで「ろう者」や「手話」を取り入れた作品が日本でも増え、注目されています。一方で、ろう者役を聴者が演じ、「ろう者俳優」の活躍する場が少ないという課題も。活躍するためのヒントを探しに、ろう者の芸能活動が盛んなフランスで研修しています。

フランスは移民社会が形成されており、人種や言語などが違う、さまざまな人々がいます。そのため「ろう者」や「手話」に対する抵抗感がなく、ろう者が活躍する環境も整っています。一番驚いたのは、子どもが手話で演技を学ぶ機会が多いこと。「ろう者協会」主催の演劇ワークショップや学校で受ける演劇レッスンの講師は、現役で活躍しているろう者俳優。メイクや照明、大道具、広報などの指導も全員ろう者です。子どもにとって、活躍しているろう者(ロールモデル)の存在は、「ろう者が演劇で活躍できる!」という夢を持つことができます。

11月から、ろう者俳優の演技を学ぶ「École de Théâtre Universelle」での講義が始まります。フランスで勉強することはたくさんありますが、日本でろう者の俳優が活躍できる場の構築を模索しつつ、自身も俳優として演技を磨き続けます。



第42期 個人研修生

奥村 泰人さん  
(聴覚障がい)

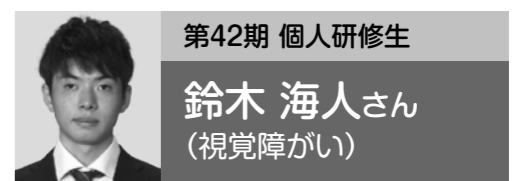
【研修先】イギリス、フランス  
【研修期間】2023年3月30日～2024年3月28日(予定)  
【研修テーマ】日本のエンターテインメントにろう者が活躍できる場を広げるため、海外の事例から学ぶ



## 新しい目標を掲げながら―― 夢を実現できるように取り組んでいきたい

2023年1月からロサンゼルス「コミュニティ・カレッジ」で映画や演劇について学びながら、音声ガイド制作者を育成する「Audio Description Training Retreats」のオンラインクラスを受講。その中で、日本とアメリカの音声ガイドの利点と欠点が見えてきました。たとえば映画。アメリカはガイド制作の数が圧倒的に多いが、映画館のレンタル聴取機器の不具合も多く、使えない劇場も。日本はガイド付きの映画作品は全体の10%ほど。しかし、手持ちのスマートフォンから聞けることに加え、映画の音声と同期して流れるので、映画館以外でも自由に使えます。

帰国後は、通っている大学で音声ガイド付き映画の上映会を開催したいと考え、映画会社に企画意図を伝えて水面下で準備を進めています。さらに新しい目標として、音声ガイドや聴覚障がい者用字幕ガイド付きの作品情報と、過去の作品の円盤販売・配信状況などを簡単に閲覧できるデジタルアーカイブを作成したいです。ゆくゆくはガイド付きアニメなら、日本の「アニメ大全」のようなデータベースと紐付けられればと…。夢を実現できるよう活動と調査を続けていきます。



第42期 個人研修生

鈴木 海人さん  
(視覚障がい)

【研修先】アメリカ  
【研修期間】2023年1月29日～8月31日  
【研修テーマ】映画文化の先端を行くアメリカにおけるバリアフリー上映の実態を探り、日本との比較を行う



# 1999年の発足より24年目を迎えた アジア太平洋地域からの研修生招へい事業



ノー・サン・ター・ウイさん  
(聴覚障がい)

- 年齢: 26歳
- 出身地: ミャンマー
- 愛称: ウイ

ろう学校の補助教員として働くウイさんは、ミャンマー語に比べて、手話は語彙が少ないと感じていました。手話の語彙を拡充して本にまとめる。日本で学んだ手話教授法でろう児に手話を教える。成人ろう者のミャンマー語の習得方法を学び、活かすことなどを考えているウイさん。日本でろう者の友人たちと観光をしたように、母国でも手話で楽しい時間を分かちあえる環境づくりを目指しています。



バステアン・コーラゲ・  
ディルシャン・カヴィンダ・ロドリゴさん  
(聴覚障がい)

- 年齢: 31歳
- 出身地: スリランカ
- 愛称: カヴィンダ

スリランカのろう者のコミュニティは、まだコミュニケーション・就労・権利・高等教育・生活環境などに多くの障壁があります。カヴィンダさんは、高齢のろう者の居場所づくりや、知的と聴覚の重複障がいのある人の生活のケアや援助ができる施設の必要性を感じています。帰国後は、「You with Deaf Us (あなたとろう者と共に)」と名付けたカフェで、聴覚障がい者の就労機会を広げていきたいそうです。



ジャスミン・センテアノ・  
アンビオンさん  
(視覚障がい)

- 年齢: 31歳
- 出身地: フィリピン
- 愛称: ジャスミン

コンサルティング会社で音声文字起こしスタッフとして働くジャスミンさん。日本の障がい者運動や福祉制度を学び、障がい者に対してどのような支援活動で課題を解決するかを知り、「日本政府の提供する医療的・経済的支援を学んだことも大きな意味がありました」と語りました。誰もが自分らしく過ごし、障がいがあっても楽しく充実した生活を送る大切さを、自国で実現させたいと話しています。



ウェン・ルウットさん  
(肢体不自由)

- 年齢: 28歳
- 出身地: カンボジア
- 愛称: ウェン

ウェンさんは、カンボジアで英語の指導や英語通訳コーディネーターをしています。研修では自立生活プログラムなどを学習。障がい者が社会の見方を変えようとする努力の結果、日本は車いすでも公共交通機関で移動でき、公共施設にはエレベーターやスロープがあり、ビルには障がい者用の多目的トイレもあります。そのスキルや体験を、障がいのある人たちのために活かしたいと考えています。



マウディタ・  
ゾプリタニアさん  
(肢体不自由)

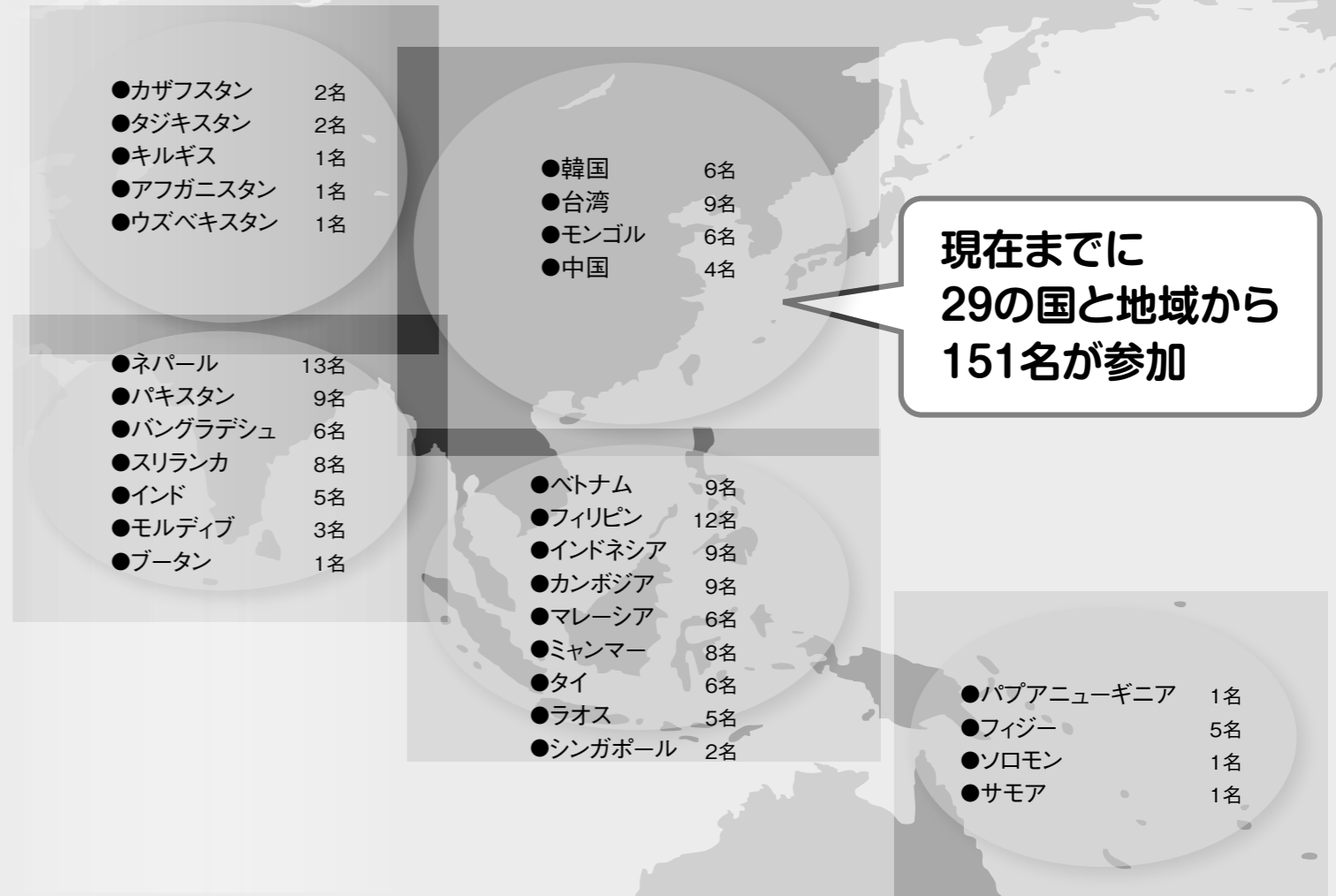
- 年齢: 25歳
- 出身地: インドネシア
- 愛称: ゴー

ゾーさんは、自立生活センターや大学で視覚障がい者のためのアクセシブルな図書の提供方法について研修。その中で「機能的に動ける自分に自信を持つことで、無限の可能性が生まれる」と、「障がい者の生活の質を向上させるためには物理的なバリアを減らすことが重要だ」と感じたそうです。母国の障がい者がバリアに突き当たることなく、研修した成果を活かしていきたいということです。

## 第22期生 主なスケジュール

2020年 11月 ~2022年 4月	オンライン語学研修 及び合同研修
4月・5月 6月	来日 開講式・日本語成果発表会
4月~6月	語学研修(対面)
6月~7月	集団研修①
7月~11月	個別研修
11月~12月	集団研修②
12月	成果発表会(オンライン開催) 修了式(ハイブリッド開催) スキー研修 帰国

アジア太平洋地域の障がいのある若者を日本へ招き、各地の機関・施設で障がい者福祉を学んでもらい、帰国後は母国のリーダーとして活躍していただく人材育成事業です。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、来日を延期していた第22期生の5名はオンライン研修を経て、2022年6月1日オンラインにて開講式&日本語成果発表会を開催。その後それぞれが研修に励み、12月16日に成果発表会・修了式を執り行い、研修を修了しました。



現在までに  
29の国と地域から  
151名が参加

## 第22期アジア研修生の成果発表会・修了式を開催



2022年12月16日、ダスキン本社にて第22期研修生の「成果発表会・修了式」を開催。同時に、Webexを活用したハイブリッド形式での動画配信も実施されました。アジア研修生の5名は、緊張しながらも研修で覚えた日本語・日本手話を使って、半年間にわたる研修での気づきと成果、今後の抱負を発表。修了式では、アカデミックガウンと角帽に身を包んだ姿を全国の関係者や母国の親族に披露しました。

# 全国各地で愛の輪啓発活動が再スタート ご理解とご支援の輪が広がりました

## 研修修了生との交流会を開催

2023年3月14日に開催された第43期研修派遣生の壮行会にて、これから研修の準備に入る研修生を前に、2人の先輩が研修の体験と今の取り組みを語りました。



青木 悠弥さん  
(第36期研修修了生)

物事に挑戦する楽しさを得た研修後の私は、大学に進学し、当事者団体を設立して視覚障がい者の教育環境を改善する活動を推進。教育を通じて社会的立場の弱い人も暮らしやすい社会をつくりたいとの思いが強くなり、教育課程を履修するため大学院で学んでいます。



織田 友理子さん  
(第30期研修修了生)

研修の成果を社会に還元するために開発した、バリアフリー情報をシェアするユーザー投稿型アプリ「Whee Log(ウィーログ)」が10万ダウンロードを達成。障がい者が動くとき迷惑をかけるのではなく、当事者が動いた体験が誰かの助けになる。その大切さを発信し続けています。

## 研修修了生が各地域の催事でメッセージを発信



「共生できる社会」に向け、力強くコメント

中国四国地域  
新春の集い(1月16日)

畝本 彩美さん (第29期研修修了生)



講演後のピアノ演奏にも拍手喝采

北関東地域  
新春の集い(1月12日)

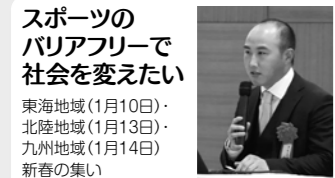
菅田 利佳さん (第36期研修修了生)



人生を変えた研修の貴重な体験を報告

近畿地域  
新春の集い(1月12日)

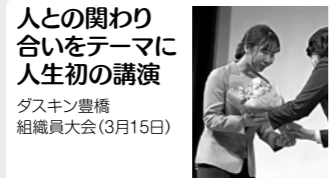
大城 亮さん (第38期研修修了生)



スポーツのバリアフリーで社会を変えたい

東海地域(1月10日)・  
北陸地域(1月13日)・  
九州地域(1月14日)  
新春の集い

小貫 怜央さん (第40期研修修了生)



人との関わり合いをテーマに人生初の講演

ダスキン豊橋  
組織員大会(3月15日)

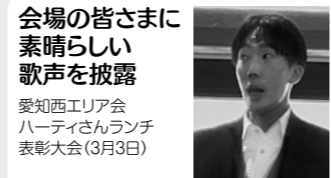
廣田 成美さん (第39期研修修了生)



感謝の心の大切さを伝え会場をひとつに

広島エリア  
組織員大会(3月10日)

坂本 奈々美さん (第39期研修修了生)



会場の皆さまに素晴らしい歌声を披露

愛知西エリア  
ハーティさんランチ  
表彰大会(3月3日)

北原 新之助さん (第35期研修修了生)



## ミスタードーナツ フレンドシップフェスティバル2022 ONLINE

愛の輪講演に(公財)日本障害者リハビリテーション協会的那須里美さんが登壇し、「街で障がいのある人と出会ったら」をテーマに講演。まずは障がい者へ興味・関心を向けることから始め、見守っていると「困っている」というのがわかり、自然に声かけができることなどをお話しされました。

## 「愛の輪」の活動は会員の皆さまの会費やご寄付によって支えられています

ソフトバンク「つながる募金」がご利用いただけます。  
クレジットカード、またはソフトバンクご利用者なら、携帯電話料金と一緒にご寄付いただけます。



ソフトバンク「つながる募金」を通じて愛の輪運動へ寄付されます。

詳しくはこちらへ



ダスキンWeb会員サイト  
DDuetコイン募金ページの開設。

本年度実績 2,065件 437,802円



ダスキンの商品購入等で付与されるDDuetコインを愛の輪基金に寄付できるようになりました。

詳しくはこちらへ



## 正味財産増減計算書・ 貸借対照表・財産目録 収入・支出 会員数の推移

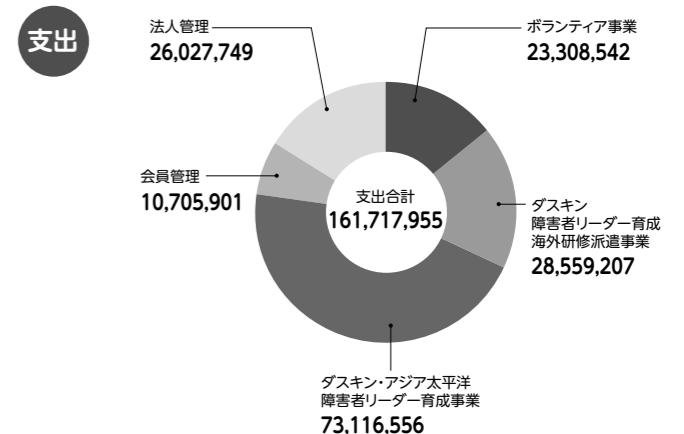
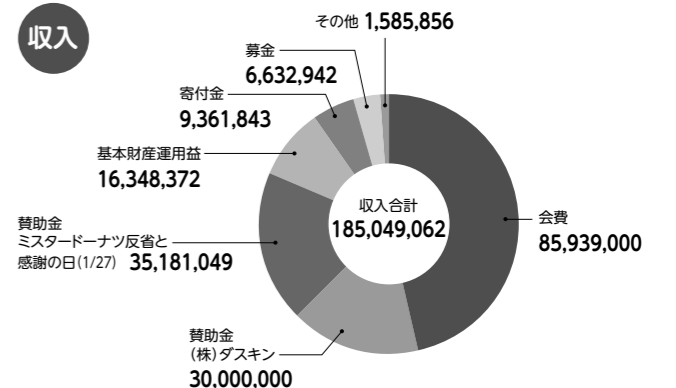
科目	合計
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益計	16,348,372
受取会費・賛助金計	151,120,049
受取寄付金計	15,994,785
雑収益計	1,585,856
経常収益計	185,049,062
経常費用計	161,717,955
当期経常増減額	23,331,107
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益計	0
(2) 経常外費用計	4
当期経常外増減額	▲4
当期一般正味財産増減額	23,331,103
一般正味財産期首残高	231,304,500
一般正味財産期末残高	254,635,603
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	53,005,800
指定正味財産期首残高	1,839,496,200
指定正味財産期末残高	1,892,502,000
III 正味財産期末残高	2,147,137,603

資産の部	
【流動資産】	
現金預金	228,058,447
未収金	0
貯蔵品	1,014,938
前払金	0
仮払金	349,258
流動資産合計	229,422,643
【固定資産】	
基本財産	1,892,502,000
その他の固定資産	38,310,151
固定資産合計	1,930,812,151
資産合計	2,160,234,794
負債の部	
【流動負債】	
未払金	3,941,855
預り金	331,887
仮受金	15,125
流動負債合計	4,288,867
【固定負債】	
退職給付引当金	8,808,324
固定負債合計	8,808,324
負債合計	13,097,191
正味財産	2,147,137,603

	第40期 2021.3.31	第41期 2022.3.31	第42期 2023.3.31
資産の部			
流動資産	142,201	201,642	229,422
固定資産	1,891,526	1,881,399	1,930,812
資産合計	2,033,728	2,083,042	2,160,234
負債の部			
流動負債	2,010	731	4,288
固定負債	9,676	11,510	8,808
負債合計	11,686	12,241	13,097
正味財産の部			
指定正味財産	1,849,653	1,839,496	1,892,502
一般正味財産	172,389	231,304	254,635
正味財産合計	2,022,042	2,070,800	2,147,137
負債及び正味財産合計	2,033,728	2,083,042	2,160,234

\*記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 収入・支出 単位:円



## 会員数の推移 2023年3月31日現在 単位:人(件)

	第40期 2021.3.31	第41期 2022.3.31	第42期 2023.3.31
法人会員	220	217	219
特定法人会員	444	437	431
エルダー会員	487	464	447
動きさん会員	1,627	1,586	1,535
個人会員A	1,429	1,378	1,340
個人会員B	2,784	2,678	2,717
個人会員C	6,066	5,976	5,794
小計	13,057	12,736	12,483
メイト会員	20	57	2
(累計)	174,171	174,228	174,230
合計会員数	13,077	12,793	12,485
(累計)	187,228	186,964	186,713

## 財団42年の歩み

- 第1期 1981年
  - 3月16日:東京・帝国ホテルで「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」の記者発表会が行われる。
  - 11月26日:厚生省より「財団法人 広げよう愛の輪運動基金」としての認可を受ける。

- 第2期 1982年
  - 1月7日:第1期留学生10名をアメリカへ派遣。
  - 1月27日:ミスタードーナツ1日チャリティが行われる。



- 研究開発助成事業として4機関が決定。
- 第2期留学生10名を派遣。
- 第3期 1983年 ●留学生9名を派遣。
- 第4期 1984年 ●留学生9名を派遣。
- 「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」事業に対し、故山西利夫氏が「ヘレンケラー・アンサリバンゴールドメダル」を受賞する。



- 第5期 1985年 ●留学生9名を派遣。
- 第6期 1986年 ●留学生8名を派遣。
- 研究開発助成事業の成果をうけて、「フェニルアラニン除去ドーナツミックス」をミスタードーナツと日本製粉が協力し開発する。
- 第7期 1987年 ●留学生8名を派遣。
- 第8期 1988年 ●留学生7名を派遣。
- 第9期 1989年 ●留学生7名を派遣。
- 第10期 1990年 ●留学生10名を派遣。
- 第11期 1991年
  - 障害者リーダー米国留学派遣事業の冠名がミスタードーナツよりダスキンに、米国留学が海外研修に変わる。団体研修27名(介助者を含む)を2チームで、2週間のアメリカ研修を行う。
  - 全国10地域に愛の輪地域推進委員会が誕生。

- 第12期 1992年
  - 研修派遣生4チーム98名(介助者を含む)を派遣。
  - 知的障害者チームはスウェーデンへ、視覚・聴覚障がい・肢体不自由チームはアメリカで約2週間の研修を行う。



- 第13期 1993年
  - 研修派遣生6チーム97名(介助者を含む)を派遣。肢体不自由者のチームを2チームに増やし、てんかんのチームを編成、アメリカに2週間、障がいの者の「就労」をテーマに学ぶ。

- 第14期 1994年
  - 全国59地区に愛の輪地区実行委員会を設立。
  - 研修派遣生13名を派遣。

- 第15期 1995年
  - 愛の輪地区実行委員会を全国72地区に編成。
  - 研修派遣生10名を派遣。

- 第16期 1996年 ●研修派遣生10名を派遣。

- 第17期 1997年 ●研修派遣生9名を派遣。

- 第18期 1998年 ●研修派遣生7名を派遣。
- 第18期研修派遣生の松江美季さんが長野パラリンピックで金メダル3個を獲得。その活躍に対し、「愛の輪賞」を贈呈。

- 第19期 1999年 ●研修派遣生9名を派遣。
- ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業をスタート。



- 第20期 2000年 ●研修派遣生8名を派遣。
- 第21期 2001年 ●研修派遣生9名を派遣。
- 第22期 2002年 ●研修派遣生9名を派遣。

- 第23期 2003年
  - 財団設立25周年記念事業として、「グループ研修派遣」が加わる。
  - 研修派遣生11名を派遣。

- 第24期 2004年
  - 研修派遣生12名を派遣。

- 第25期 2005年
  - 11月16日:ヒルトン東京において「財団設立25周年記念式典」が開催される。
  - 研修派遣生11名を派遣。

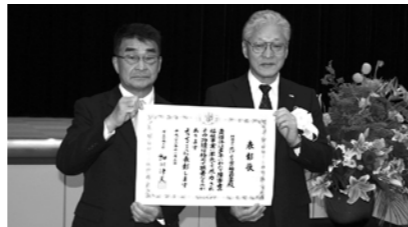
- 第26期 2006年
  - 研修派遣生12名を派遣。

- 第27期 2007年
  - 研修派遣生12名を派遣。

- 第28期 2008年
  - 研修派遣生30名を派遣。「ジュニアリーダー育成グループ研修」が加わる。
  - 愛の輪地域実行委員会を全国11地域に編成。

- 第29期 2009年
  - 研修派遣生16名を派遣。

- 第30期 2010年
  - 研修派遣生27名を派遣。
  - バンクーバー2010パラリンピック冬季競技大会のアイススレッジホッケーで、銀メダルを獲得した第21期研修派遣生 永瀬充さんに対し、「愛の輪賞」を贈呈。
  - 12月3日、広げよう愛の輪運動の30年間にわたる障がいの者のための福祉事業が認められ、「第60回障害者自立更正等厚生労働大臣表彰」を授賞。



- 第31期 2011年
  - 研修派遣生19名を派遣。
  - 2011年12月、公益法人の認定を受け、2012年2月、「公益財団法人ダスキン愛の輪基金」として名称も新たにスタート。

- 第32期 2012年
  - 研修派遣生13名を派遣。

- 第33期 2013年
  - 研修派遣生9名を派遣。
  - ロンドン2012パラリンピック競技大会の水泳競技において、銀メダルと銅メダルを獲得した、第30期研修派遣生 木村敬一さんに対して「愛の輪賞」を贈呈。

- 第34期 2014年
  - 研修派遣生14名を派遣。
  - 「スタディ・イン・アメリカ研修」が加わる。

- 第35期 2015年
  - 研修派遣生5名を派遣。

- 第36期 2016年
  - 財団設立35周年、秋篠宮妃殿下、眞子内親王殿下ご臨席のもと、海外研修派遣生の成果発表会を開催。
  - 研修派遣生7名を派遣。

- 第37期 2017年
  - 研修派遣生8名を派遣。
  - 「ミドルグループ研修」が加わる。

- 第38期 2018年
  - 研修派遣生8名を派遣。

- 第39期 2019年
  - 研修派遣生9名を派遣。

- 第40期 2020年
  - 研修派遣生7名を派遣。

- 第41期 2021年
  - 第41期生の募集はコロナウイルス感染拡大のため未実施。
  - 東京2020パラリンピック競技大会の水泳競技において、第30期研修派遣生 木村敬一さんが、金メダルと銀メダルを獲得。

- 第42期 2022年
  - 待機中の研修派遣生を含む5名を派遣。

## 役員・委員一覧

### 役員

(任期:2023年6月19日~2025年6月開催予定評議員会)

理事	理事長	大久保 裕 行	(株)ダスキン 代表取締役社長執行役員
	専務理事	大石 あかね	(株)ダスキン ミスタードーナツ事業本部ミスタードーナツ運営開発本部(MDカレッジ)部長
	常務理事	水 嶋 美 幸	(公財)ダスキン愛の輪基金 事務局長
	理事	山 根 明	ダスキンフランチャイズチェーン全国加盟店会 理事長
	理事	松 友 了	社会福祉士事務所・早稲田すばいく 社会福祉士
	理事	五十嵐 紀 子	(社福)光友会 理事長・総合施設長
	理事	大 熊 由 紀 子	国際医療福祉大学大学院 教授
	理事	田 門 浩	都民総合法律事務所 弁護士
	理事	小 川 美 樹	ミスタードーナツフランチャイズ共同体 理事長
	理事	朝 日 雅 也	埼玉県立大学 名誉教授
理事	立 花 明 彦	(社福)日本点字図書館 館長	
理事	竹 内 克 人	ダスキン生産協栄会 理事長	

(任期:2023年6月19日~2027年6月開催予定評議員会)

評議員	評議員	東 正 樹	ダスキンユニフォームサービスFCチェーン会 理事長
	評議員	君 島 淳 二	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 常務理事
	評議員	佐 浦 隆 一	大阪医科大学 医学部 総合医学講座 リハビリテーション医学教室 教授
	評議員	池 口 誠	ダスキン労働組合 委員長
	評議員	金 井 栄	ダスキン全国ケアサービス加盟店会 理事長
	評議員	山 崎 正 順	ダスキンレントオール・ヘルスレントコミュニティ会 理事
	評議員	山 本 貴 之	(株)ヤマヨフーズ 代表取締役社長
	評議員	松 重 泰 子	(株)ダスキン 人事部 部長

(任期:2023年6月19日~2027年6月開催予定評議員会)

監 事	監 事	宮 田 直 人	(株)ダスキン 取締役CFO
-----	-----	---------	----------------

(任期:2023年6月19日~2025年6月開催予定評議員会)

顧 問	顧 問	山 村 輝 治	(株)ダスキン 取締役会長
-----	-----	---------	---------------

### ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業実行委員会 委員

(任期:2023年4月1日~2025年3月31日)

青 松 利 明	筑波大学付属視覚特別支援学校 教諭	長 瀬 修	立命館大学生存学研究所 研究員 インクルージョン・インターナショナル事務総長
青 柳 まゆみ	愛知教育大学教育学部 准教授	福 田 暁 子	全国盲ろう者協会 評議員・国際協力推進委員
金 塚 たかし	大阪精神障害者就労支援ネットワーク 副理事長・統括所長	小 林 昌 之	日本貿易振興機構 アジア経済研究所 主任調査研究員
小 林 洋 子	筑波技術大学 講師	平 下 耕 三	NPO法人自立生活夢宙センター 理事長 全国自立生活センター協議会代表

### ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業実行委員会 委員

(任期:2023年4月1日~2025年3月31日)

寺 島 彰	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 副会長	野 村 美 佐 子	NPO法人 支援技術開発機構 事務局長
山 口 和 彦	NPO法人 居宅移動支援事務所 TOMO 事務局長	廉 田 俊 二	NPO法人 メインストリーム協会 理事長
河 村 宏	NPO法人 支援技術開発機構 副理事長	川 口 聖	国立民族学博物館 外来研究員
嶋 本 恭 規	(一財)全日本ろうあ連盟 理事	茨 木 尚 子	明治学院大学 教授

### 愛の輪運動地域実行委員会 委員長

(任期:2022年4月1日~2024年3月31日)

北海道地域	吉 川 哲 也	(株)ダスキンフロンティア 代表取締役
東北地域	稲 葉 廣 直	(株)アイウエイイナバ 代表取締役社長
東京地域	川 島 商 彦	(株)ダスキン三吉屋 代表取締役
北関東地域	齋 義 久	(株)ダスキン土浦 代表取締役
南関東地域	渡 辺 信 義	クリーンスペース(株) 代表取締役会長
北陸地域	重 松 哲 也	(株)和倉ダスキン 代表取締役
東海地域	浅 倉 伸 治	(株)経真 代表取締役
近畿地域	山 形 淳 一 郎	(有)シーズ 代表取締役
中国地域	橋 詰 正 紀	ダスキン愛の店廿日市(株) 代表取締役
四国地域	西 岡 正 人	(有)ダスキン高知 代表取締役
九州地域	鐘ヶ江 伸 哉	西日本リビング(有) 代表取締役